

歴史探訪

諏訪地域の発展に尽くした人 坂本養川 堰マップ

一、はじめに

今年、7年目に一度、寅と申の年に行われる、全国諏訪神社の総本社である諏訪大社の御柱祭の年で、御柱は、八ヶ岳や霧ヶ峰の社有林で選ばれ、山から里を曳き、急坂を落とし川を越え、四社の境内四隅に建てるまで、祭りは4月から約1ヶ月半に亘って行われます。日本三大奇祭のひとつと言われ、1200年以上も連綿と受け継がれた伝統文化。豪快・勇壮・迫力ある祭りです。是非、見物にお出かけください。

さて、その諏訪地域には、江戸時代、この地を治め、諏訪明神の神野



写真1 坂本養川翁像

と呼ばれる御狩場を開発していた高島藩に何度も献策し、新たに300ha余の新田を拓いた坂本養川という農業土木技術者がいました。その養川を長年研究している高校の同級生が中心になって、昨年「坂本養川堰マップ」を製作したので紹介させていただきます。(図1)

二、坂本養川と堰マップ

坂本養川は、江戸時代後期、八ヶ岳西麓地域の水不足を解決するために、「繰越堰」という用水体系を考え、現在の茅野市を中心に原村・富士見町・諏訪市の4市町村に15本の堰(用水路)を開削した人です。

繰越堰というのは、水量が多い北部の川の余水を、順々に南部の水不足地域に送って複数の河川を水路で結び、その沿線をかながいする水利システムで、これにより諏訪地域の用水体系が再構築されました。

養川と養川堰については、平成14年から27年まで全国版の小学校

社会科の教科書に載っていました。現在は記載がありません。

また、全15堰のうち2堰(滝之湯堰、大河原堰)は、平成28年に世界かんがい施設遺産に登録されていますが、今回、15堰全体をわかりやすく解説しようと、坂本養川堰研究会が、県の支援金を得て製作したものです。(写真1、表1、写真2)



赤羽昭彦

長野県農村振興技術連盟会員



図1 坂本養川の開発した15堰

表1 坂本養川の開発した15堰

| マップ No. | 堰名 | 完成年 | 水源河川 | 延長 (町間) | 備考 (km) |
|---------|-------------|------|--------|---------|---------|
| ① | 大河原堰 | 1792 | 滝之湯川 | 114.32 | 12.5 |
| ② | 滝之湯堰 | 1785 | 滝之湯川 | 95.11 | 10.4 |
| ③ | 鳴岩堰 | 1791 | 鳴岩川 | 39.00 | 4.3 |
| ④ | 柳川三ヶ村堰 | 1800 | 柳川 | 82.49 | 9.0 |
| ⑤ | 坪之端堰 | 1787 | 柳川 | 31.00 | 3.4 |
| ⑥ | 一ノ瀬堰 | 1786 | 柳川 | 158.20 | 17.3 |
| ⑦ | 立場川乙事堰 | 1792 | 立場川 | 70.20 | 7.7 |
| ⑧ | 千ヶ沢新堰 (小六堰) | 1792 | 千ヶ沢 | 58.54 | 6.4 |
| ⑨ | 程久保堰 (神戸堰) | 1792 | 程久保川 | 22.20 | 2.4 |
| ⑩ | 棚田堰 | 1800 | 柳川 | 23.34 | 2.5 |
| ⑪ | 鬼場新堰 | 1791 | 上川 | 53.11 | 5.8 |
| ⑫ | 車沢堰 | 1792 | 音無川車沢 | 35.50 | 3.9 |
| ⑬ | 塩之原堰 | 1792 | 塩沢 | | 0.0 |
| ⑭ | 相之倉堰 | 1799 | 茅野横河川他 | 20.06 | 2.2 |
| ⑮ | 矢戸倉堰 | 1800 | 角間川 | 13.50 | 1.5 |
| | 計 | | | 816.57 | 89.1 |

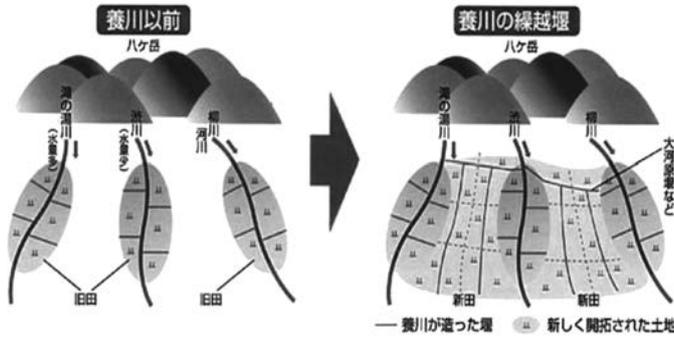


図2 繰越堰の概念図



写真2 大河原堰 乙女滝と掛樋

横谷溪谷の乙女滝は、観光名所になっていますが、実は、滝之湯川から取水している大河原堰の一部です。深い溪谷の洪川を横断させるために、河岸の急峻な崖を一気に落下させ、川に落ちる前に集めた水を水路橋（築造当時は木製の掛樋）で渡しています。岩盤を巧みに加工し

三、観光名所乙女滝は自然の落差工

諏訪地方の昔話ですが、高さを競って富士山に負け、頭が八つの峰に分かれ低くなった八ヶ岳の妻の蓼科山が流した涙が貯まって現在の諏訪湖が出来たという言い伝えがあります。（写真3）



写真3 日本百名山 蓼科山（女の神山）

四、水がめ蓼科山（女の神山）

水量が豊富な北部の滝之湯川の水は、八ヶ岳連峰の最北端の蓼科山（2531m）です。蓼科山は、深田久弥の日本百名山No.63で、優美な円錐型に見えることから、諏訪富士や女の神山とも呼ばれ、八ヶ岳南部に比べ森林が多く、湧水が豊富で、諏訪側だけでなく、佐久側の多くの用水の水源にもなっています。

た、いわゆる落差工で、滝の下では自然石を使って減勢させる工夫がされており、このためこの滝には滝壺がありません。（写真2）

六、おわりに

友人はマップ完成後、4市町村の小学校の授業と生涯学習の講座や見学会、解説員育成でフル回転です。授業や講座では、八ヶ岳山麓全体を俯瞰した養川の構想と彼のチームのこと、そして維持管理してきた土地改良区など関係者の努力も伝えていくと言っていました。

世界かんがい施設遺産の登録と同様に、今回のマップを通じてより多くの人達が地域の宝物を知り、堰が将来に亘って大切に守られて行くことや、堰を巡る企画など健康や観光など様々な形で地域の振興に繋がって行くことを願っています。

なお、茅野市八ヶ岳総合博物館に「坂本養川コーナー」があり、映像や図表、模型等で詳しく展示しています。マップは、4市町村の公民館で無料で貰え、茅野市のHPからもダウンロード出来ます。

皆さんも御柱祭の観光に合わせて、マップ片手に養川堰と諏訪の名所を巡られたらいかがでしょうか。

○諏訪の農業用水と坂本養泉（1998）
 8 諏訪地区農業土木研究会企画、浅川清栄執筆
 ○信濃の疏水（2017）長野県土地改良事業団体連合会発行、県農地整備課職員執筆

（2021年11月受稿）